

## 西本願寺派 高峯山随泉寺

### 彼岸会法座

講師 法性寺住職 高都持 正文師

### 題目 自身に気づく

み仏の <sup>まゆ</sup>眉ゆるやかに <sup>はなあんず</sup>花杏 (永方 裕子)

思わせるような温かい日が続いたかと思うと、今朝は一面の雪化粧で  
 これから温かい日と寒い日を繰り返しながら、春は来るのでしょうか。梅  
 も終り、桜の花が咲くまでのこの時期、目を楽しませてくれるのは、桃  
 の花です。杏の花を遠くから眺めると、枝に伸びた木にほんのり紅色が  
 かり、じつに美しい。それはまるでみ仏の眉のようです。奈良の薬師寺の  
 菩薩様のおすがたを思い出します。やわらかで慈悲の御心がにじみ出  
 ような美しいおすがたです。杏の花の緩やかな枝先がみ仏の眉のよう  
 私はこの杏が大すきです。もっとも食べれる実の方ですが。彼岸がや  
 ます。厳しい寒さをしのいでじっと耐えてきた花々も、明るいひかりに照ら  
 て、美しい花をつけます。この美しい時こそ、自分自身の相をもう一度  
 おし、ほとけ様の教えに耳を傾けるのが、聖徳太子が願われた彼岸の  
 の意味でしょう。今回の御講師は昨年連続研修でみなさん方と一緒に  
 した佐伯町浅原の法性寺の御住職です。どうぞこぞってお参りください。

## 3月の法座予定

14日昼席午後1時より………彼岸法座

14日夜席午後7時半より……出張法座 上平原

15日朝席午前10時より………彼岸法座

15日昼席午後1時より………彼岸法座 修復実行委員会

## お知らせ

※ 2月14日～15日の仏婦講座で久しぶりに御講師の先生を迎えて  
 法座でした。きれいになった本堂で法話を聞くのは気持ちいいもので  
 しかし一番寒い時だったので、少し隙間風が冷たく、厚着をしてこら  
 た人も多かったようです。ストーブを修復の時ほとんど古いのは処分  
 てしまいましたので、急遽購入しましたが、天井が高いので暖かい空気  
 は上の方へ上がってしまい、寒かったようです。いす席も足が痛くなく  
 て良いと、好評でしたが、足元が寒いと言う問題点もわかりました。  
 また、外のトイレを下水の関係で取壊しました。しかし外に無いのはな  
 にかと不便だと言う希望もあり、寒さ対策とトイレの件は、今修復委員  
 会で検討中なのでもう少し御待ち下さい。

※ いま西本願寺では宗会議員の選挙が始まっています。宗会議員とい  
 うのは本願寺の予算や行事を決める委員のことです。この安芸教区から  
 3名の僧侶議員と1名の門徒議員が選出されます。安芸北組の府中の龍  
 仙寺の御住職が立候補しておられて、住職は今その応援で忙しくして  
 います。本願寺の宗会というのは日本の国会より歴史が古く、その形態を  
 国会の方が取り入れたといわれています。府中の龍仙寺の御住職は総務  
 という大臣に当る重責を負っておられます。やがては本願寺の総長にな  
 られる逸材です。今回の帰敬式でも大変力を貸していただきました。頑  
 張ってもらいたいと期待しています。

### ☆お知らせ

第8回連続研修旅行 日時 5月10日～12日 京都・大阪・滋賀  
 行き先 西本願寺・大谷本廟・八尾 顕証寺・近松別院 京都御所  
 詳しくはまたご案内致します。帰敬式(おかみそり)大谷本廟に納骨の  
 予定です。募集人員は四十五名の予定です。希望者は早めに申し込み  
 下さい。京都御所の許可が宮内庁から届きました。一般参観の時は人が多  
 いのですが、今回は時間を決めて随泉寺だけの参観です。多数御参加  
 下さい。

皆さまと一緒にご正忌報恩講をおつとめし、宗祖親鸞聖人のお徳を  
お授けいただきました。御影堂の修復工事のために、昨年からの総徹堂で  
おつとめするようになりましたが、今年からは、ご正忌などの法要の  
中央でおつとめすることになりました。皆さまのご感想はいかがでしょ  
うか、一昨年頃から「二十一世紀」という言葉を耳にしたり、口にしたり  
してあります。世界の歴史を百年という単位で、区切って顧みることは、  
ありませんし、

世の中の難しい問  
題を良い方向へ展開して  
切り替えていきたく  
というきっかけに  
かという切実な願い  
を込めてお祈り  
できます。

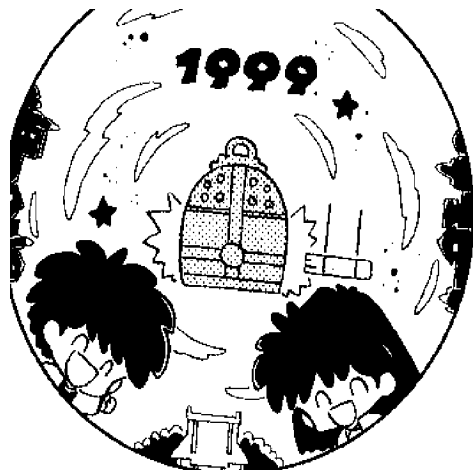
し、仏教的に考えて  
みると、世紀が新しく  
なるからというだけで、

世は変わるものではありません。どこまでいっても罪悪生死の凡夫でありま  
す。大切なことは、その凡夫が、真実の教えに遇って、日々新たないのちを生き  
抜くことです。

世の変わり目だけではなく、毎日、時々刻々、新たな気持ちで、本当に大切  
なことを思いつつ、過ごしていきたいものであります。

私たちの宗門にとりましては、宗祖親鸞聖人の七百五十回大遠忌まで、  
一年ということも大切であります。皆さまのお寺や宗門のあり方、運営に  
ついて、現状を正確に捉え、み教えが次の世代に正しく伝わるようにと、  
方針を立てて進める必要があります。皆さま、それぞれの場で  
おつとめくださるよう願っております。

先日、京都で発行されました新聞に、ある心理学者の意見として「現代人は  
技術によって、一週間後の天気やわかったり、遠い外国のことも即座にわ  
かるところになったけれども、隣にいる、身近にいる家族の気持ちがわかってい  
ない」という意味の文章が載っており、「はっ」とさせられました。



2000  
2001  
2002  
3456

文に付く加えたり、高きではなく、自分自身のことをわかってい  
省させられることです。文字や映像などの情報は手に入っても、生身の  
ことがわからない、わかりにくいということでありましょう。

阿弥陀如来さまの光があたっているのは、生身の人間、この私であり、お  
人です。ですから、家庭生活、社会生活の中で、阿弥陀如来さまのおこと  
味わうところに大切な点があります。お念仏申しつつ、日々の出来事の  
考え、体験をそのまま終わらせず、お慈悲を味わうご縁にしていきたい  
です。

親鸞聖人は、ご和讃に「如来の作願をたづぬれば 苦悩の有情をすて  
回向を首としたまひて 大悲心をば成就せり」(『註釈版聖典』六〇六頁)  
とうたわれました。阿弥陀如来様は、南無阿弥陀仏となって、今ここに



く見抜くことは易しく  
ません。

いのちに限りがあ  
知ってはいても、そ  
り受け入れること  
はありません。

正しい努力を積み重  
ことも易しくありま

阿弥陀如来さまは、  
にそこを見抜いて、

阿弥陀仏となって、  
とりの世界であるお

へとよんでくださる

す。ですから、阿弥陀様の前ではわが身を取り繕う必要がありません。手  
からいを交えず、素直に南無阿弥陀仏をいただくばかりです。そこでは  
いのちは、私のもの、私物ではなくて、阿弥陀如来さまの光を受けるいの  
あります。そして、阿弥陀さまの分け隔てのない光を仰ぐとき、すべての  
ちあるものが、その光の中にあることを知らされます。お念仏申しつつ、  
ちの大切さを思い、身近なところから行動に移してまいりましょう。

平成13年(2001)1月16日

文責 住職